



にこにこ通信

利用者支援相談員がってきました！

◆ 保育コンシェルジュ通信 H29年11月号 ◆

風の冷たさや木々の紅葉に秋の深まりを感じる季節となりました。

私たち利用者支援相談員は来年度の入園手続きの受付が始まり、多くの保護者のみなさんとお話をさせていただくなかで、お子さんの発達面や身体面で気になることの相談を受けることがあります。入園前には園長先生と療育に精通した児童発達支援センターの保育士などが相談して、加配保育士を配置します。加配保育士には発達に遅れがあったり、集団生活の中で困ることがある子どもに寄り添って助ける役割があります。

今回はこのような加配保育士さんについて市内こども園の先生にお話を伺ってきました。

こども園にはクラス担任のほか、数名の加配保育士さんがいます。加配保育士はお子さんの状態に応じてマンツーマンで付き添ったり、担任保育士のサポート的な役割を担っています。

園児とのコミュニケーションにはいろいろな工夫をしているそうです。例えばクラス替えの後、新しい環境に子どもが不安を感じているときにはよく分かるように写真を用いて新しいクラスの説明をしたり、気持ちが不安定なときは衝動的に動くこともあるので子どもの気持ちの揺れを観察しながら丁寧に関わっていくそうです。

言葉を意図的に出すようにし、言葉と物、出来事などが結び付くように関わり、目の前に起こった出来事を通して子どもに分かりやすい言葉で伝えていきます。このように園児の様子を観察しながら、遊ぶ、食べる、お話しするなど、クラスの子どもたちみんなが楽しく過ごせるように心がけているそうです。

子どもの変化があれば送迎の際に保護者に伝え、その際に保護者から家庭での様子を聞き取るなど、保護者とのコミュニケーションも図りながら園での保育に繋げているそ

うです。こうしたやりとりは保護者の方にとって安心して子どもを預けられることに繋がっていくと思います。

このように保育園の先生方はお子さんたちを手厚く保育されていました。お子さんのことで何か気になることがあるときは相談してほしいと思います。また、幼児保育課の窓口にも相談員がいますので市役所にお越しの際など気軽にお立ち寄りください。

～ 高砂こども園の縁日ごっこにお邪魔してきました！ ～

8月29日（水曜日） 高砂こども園で“縁日ごっこ“が開催されました。

園内には子ども達のにぎやかな声が響いていました。ヨーヨー釣り・お面屋さん・輪投げ・金魚すくい・さかな釣り・くじ引き・ポーリング屋さんといった屋台が並び、子どもたちのカラフルなイラストによってにぎやかに飾られていました。お店に立っているのは年長児さんたち。「いらっしゃいませ！」「こっちに来てくださーい！今ならすぐできますよー！」と大きな声で呼び込みをしていました。この日は快晴で、残暑厳しい日でしたが子どもたちの声は元気いっぱい。くじ引きの屋台では、商品が釣れると園児が手渡ししてくれました。商品は子どもたちの描いた絵のカード。カラフルに彩られた可愛らしいカードでした。「ありがとうございます」「また来てくださいね」と言って送り出してくれました。園児たちの元気いっぱいの姿に私たちも笑顔になりました。



子どもたちは縦割り班を作って縁日を回っていました。年長児さんは年下の園児の手を引いてエスコートしてあげていました。また、この日は高砂小学校の2年生の母園訪問の日でした。ちょっぴり大人に見えるお兄さんお姉さんたちの後ろを園児たちがついて行っていました。高砂こども園を卒園した小学生が「〇〇先生ー！」「ひさしぶり」と先生とお話していました。子育てサークル“るんるん”の子どもとお母さん達も参加していました。一緒に遊んで、親子同士で触れ合っていて楽しんでいる様子でした。

学年を超えた交流の場を作り、縦のつながりを深める様子がみてとれました。地域のつながりを大切にすることで、小さい子どもも、大きく育てからでも、地域の皆さんで子育てしていけるのだと思います。

